

実効再生産数

1/10	5.68
1/20	2.58
1/23	1.93
1/31	1.46
2/1	1.28
2/7	1.15
3/14	0.93
3/21	0.98
3/28	0.95
4/4	1.05
4/11	1.01
4/18	0.98
4/25	0.97
5/10	0.97
5/16	1.07
5/21	0.97
5/29	0.97
6/6	0.90
6/13	0.95
6/20	0.98
6/25	1.01

2022年6月26日 23時55分更新

データ提供: JX通信社/FASTALERT



実効再生産数

1/10	7.46
1/20	3.68
1/23	2.29
1/31	1.50
2/1	1.31
2/7	1.15
3/14	0.97
3/21	1.01
3/28	0.96
4/4	1.19
4/11	1.10
4/18	1.04
4/25	0.92
5/10	1.00
5/16	1.09
5/21	0.97
5/29	0.93
6/6	0.91
6/13	0.90
6/20	0.96
6/25	1.04

2022年6月26日 23時55分更新

データ提供: JX通信社/FASTALERT

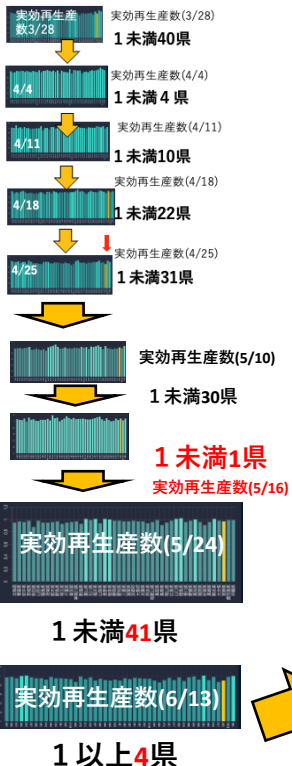
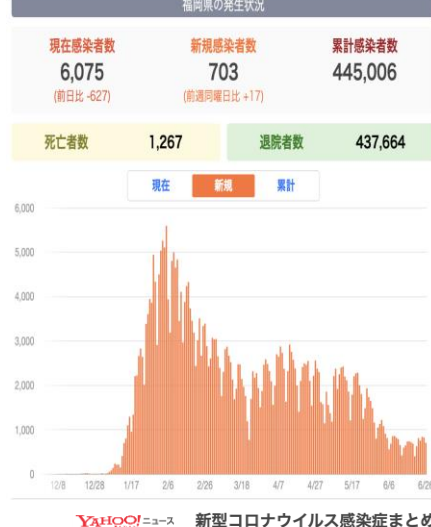


実効再生産数

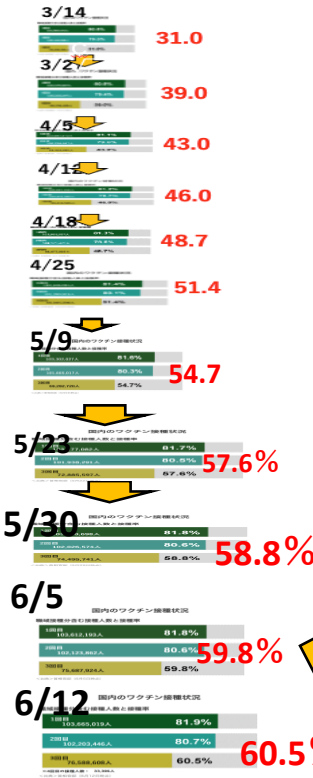
1/10	24.3
1/20	4.69
1/23	2.38
1/31	1.30
2/1	1.05
2/7	0.93
3/14	1.00
3/21	1.02
3/28	0.96
4/4	1.06
4/11	1.03
4/18	0.99
4/25	0.99
5/10	0.97
5/16	1.04
5/21	0.96
5/29	0.93
6/6	0.89
6/13	0.92
6/20	0.96
6/25	1.03

2022年6月26日 23時55分更新

データ提供: JX通信社/FASTALERT



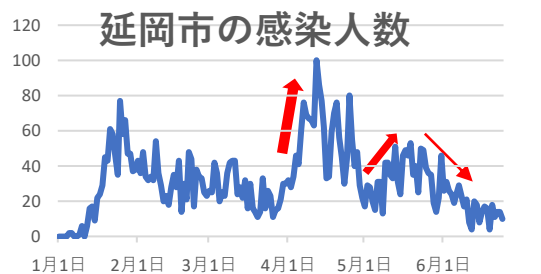
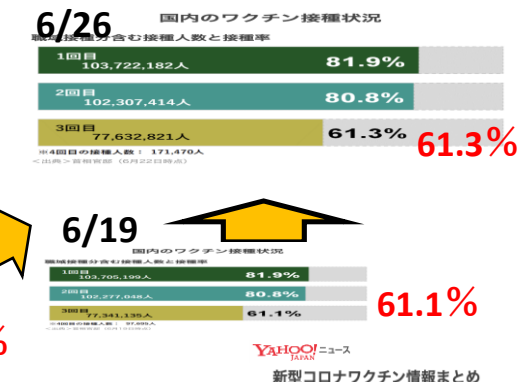
熊本、佐賀、長崎、福岡、宮崎、1以上



宮崎県DATA(6/25)
 医療機関入院中26名(延3)
 宿泊療養施設入所中76名(延21)
 自宅等療養者1382名



ワクチン接種
 0.2%/w増加 60%達成!



家族内感染、高齢者施設、障害者施設、高校部活の感染増加している
 宮崎県：10万人あたりの感染者国内で10番目
 現在下げ止まり状態、これから微増し、
 7月中旬まで感染者が低い状態続き、その後BA.5が増加し、8月のお盆休み以降にピーク
 その後9月後半には減少する

延岡市の実効再生産数

5/16	1.26
5/23	1.09
5/30	0.74
6/3	0.76
6/7	0.92
6/14	0.68
6/21	0.95
6/25	0.92

実効再生産数増加 注意必要

by 佐藤圭創

新型コロナウイルス感染症の 現在の状況と今後の動向

現在の状況

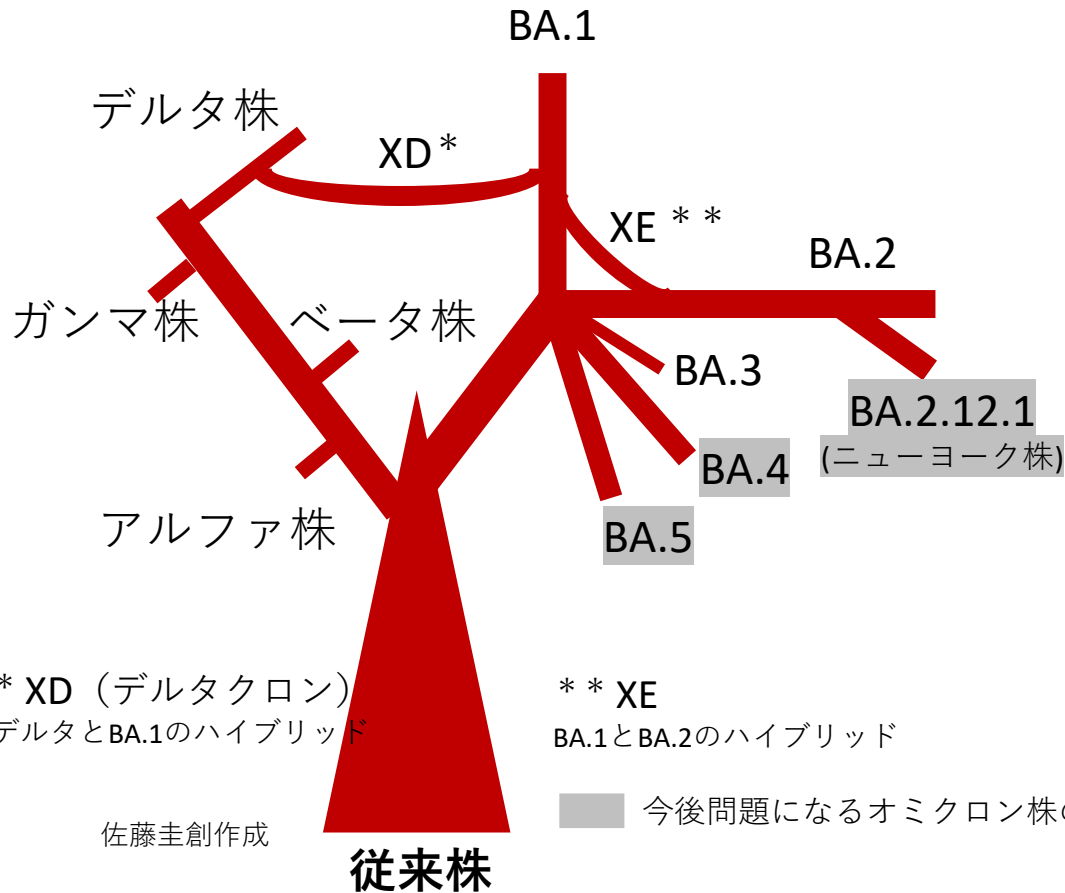
- 5月のゴールデンウィーク後に5/11頃に感染のピーク、その約10日後に重症者及び入院が必要な患者数のピークを記録した。
- その後、徐々に感染者数、重症者及び入院が必要な患者数は、ゆっくり減少し、5月末から6月中旬までは、実効再生産数（1人が何人に感染させるかの指数）が、ほとんどの都道府県で1未満となり、先週前半まで感染者数が減少傾向を示した。
- 宮崎県も全国同様、感染者数、重症者及び入院が必要な患者数は、ゆっくり減少し、先週の中頃までは、減少傾向を示していた。
- 先週末から、全国の実効再生産数で、全国平均**1.01**、宮崎県**1.04**と1以上に転じた。
- 延岡市の実効再生産数は、6/14に**0.68**まで低下したが、その後徐々に増加に転じ、現在**0.9**を超えてきた。
- 実効再生産数が、継続的に1を超えると、その7～14日で感染者数は明らかな上昇傾向を示すと考えられている。
- オミクロン株の亜種である、**BA.4**と**BA.5**が南アフリカから欧州へ広がりを見せ、ポーランドのように感染者が急増している国が出てきた、また**BA.2.12.1**がアメリカの東海岸を中心に拡大し、全米に広がりつつある。

今後の動向

- 国内の実効再生産数の動向、海外のオミクロン亜種の広がり、インバウンド再開、そして人流の変化、マスク着用方法の変化、3回目のワクチン接種の伸び悩み（60%越えたものの増加せず）感染疲れ、気の緩み、夏季休暇などの要因を考えると、7月に、オミクロン亜種が徐々に広がりを見せ、人流急増と共に8月の中旬にピークを迎える可能性が高い。

以上より、大きな流れの中では、新型コロナウイルス感染症は、ゆっくり終息の方向に向かっていることは間違いないが、まだまだ感染の波は継続する。しかし、新しい種類のワクチン、新しい治療薬も出揃ってきており、コントロールできる病気になりつつあり、将来は明るいと考える。

新型コロナウイルスの変異株及びオミクロン亜種



- オミクロン変異株は、オミクロン株出現以前のアルファ、ベータ、ガンマ、デルタ株とは、大きく系統が異なる。
- オミクロン亜種は、ハイブリットタイプ（XDやXEなど）とオミクロン株から別れて出来たもの（BA.1～5）とがある。
- 別れた枝が、離れていればそれだけ遺伝子情報や抗原となるタンパク質も異なる＝ワクチン効きにくい
- この中で、BA.4、BA.5、BA.2.12.1が今後、流行する恐れがある

オミクロン亜種	初発地域	感染拡大地域	国内	感染力（BA.2と比較）	ブースター接種*の必要性	変異1	変異2
BA.4	南アフリカ	南アフリカ、ポーランドなどのヨーロッパ	すでに市中感染確認	1.2倍	大	L452R変異あり	D3N変異なし
BA.5	南アフリカ	南アフリカ、ポーランドなどのヨーロッパ	すでに市中感染確認	1.2倍	大	L452R変異あり	D3N変異あり
BA.2.12.1	アメリカ	米国全体	すでに市中感染確認	1.23倍	大	L452Q変異あり	

BA.1,2と異なりL452の変異あれば、BA.4,5,2.12.1
L452R変異あり、D3N変異なし→BA.4
L452R変異あり、D3N変異あり→BA.5
L452R変異ではなく→L452Qであれば→BA.2.12.1

*ブースター接種：3回目以降のワクチン接種

佐藤圭創作成